

---

# コロッケパン！

でん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コロツケパン！

### 【Nコード】

N9113C

### 【作者名】

でん

### 【あらすじ】

いじめられっこの宮川はある日、不良たちにコロツケパンを買いに行かされ、パン屋に行く。しかし、そのに謎の巨人（注）人間）が現れ、コロツケパンを一つ分けてくれという。宮川はパンをあげて、不良たちの所へ戻るが、一つ足りないとボコボコにされてしまう。

## 1話 巨人の恩返し

僕は情けない

実に情けない

僕は明中高校1年生

入学して2ヶ月はたった

でも、高校生活は楽しくない

そう、僕はただのイジメられっ子だ

毎日先輩にパシリにされ、殴られ、金を取られ・・・

僕は平和な学園生活を楽しみたいだけなのだ・・・

「よお。ちよつとこつちこいや」

僕はいつも通り不良のお使いに行かねばならない・・・

背中を叩かれビクツとした僕に3人の不良たちは笑っている

彼らが僕をイジメている不良たちだ

体がでかい小園、なんだよ！そのかわいらしい名前は！！ただのデブだろ！

俺がジャッキーだったらボコボコにしてやったね

そして小園とは正反対の細くてひよろひよろした遠山

なんだよ！お前はイカか？いつかその足へし折ってやる

最後に僕にはあんまり危害を加えてない川崎

彼はいつも無口で何がしたいのかわからない

「なあゾノつち、今日なに食べたい？」

「んゝそうだなあ・・・コロッケパンがくいってえ」

「川崎は？」

「俺もそれでいい・・・」

「ということでチビ太、コロッケパン3つ買って来い」

うつせーんだよ！！このイカ野郎！！貴様がかってこい

もちろん言えなかった

僕はパン屋に入ると、トレイとはさみを取ってコロッケパンをさがす  
あった！

しかもちようど3つ！！

僕はトレイにパンを置くとレジに向かう

ここまではいつも通り

だが、今日はいつもと違った

でかつ！！！！

思わず叫んでしまった（心の中で）

そこには僕と同じ制服をだらしなくきた巨人がたっていた

髪は逆立ち、鋭い目つきをしていた

ぎゃああああ！

またカツアゲでもされるのか！？どつかいけっ！デクノボウ！

そいつは店を一周すると僕の方へ来た

くんなあああ！！こつち来たら伝説の左パンチおみまいするぞー！！

そいつは僕のまえで止まりこういった

「それ、全部くうのか？」

「え？」

「コロッケパンもうないんだ・・・」

「あ・・・え・・・つと・・・」

「一つ分けてくれないか？」

「どーぞ！どーぞ！どーぞ！！！！」

全身全霊でコロッケパンを渡した

体から大量の汗をかく

そいつは僕のどーぞに引いていたようだ

2、3歩後ろにさがった

「サ・・・サンキューな」

「おい！！こいつぁどういうことだ！？」

「コロツケパンが2つしかないなあ！ゾノっち、どうする？」

「全身ボコボコの刑だ」

「うつひょー！久々にうでがなるぜえ」

僕は校舎の屋上に連れられ、小園と遠山に体中を殴られる

痛い・・・でも何もできない・・・

川崎はタバコをくわえてこっちをみている

誰か・・・助けて・・・

ドゴォン！！

鈍い音とともに、遠山が宙に舞い、フェンスに激突した

僕はあいた口がふさがらなかった。それは小園も同じだ

川崎は口をあけ、くわえてあったタバコと落としその場で固まった

そしてそいつは口を開いた

「そのチビ返してくれねーかな？」

あ・・・あいつは・・・パン屋の巨人だ！！

巨人の言葉に小園が反応し、巨人に言った

「な・・・あつ・・・なんだよお前は！殺されてえのか！？」

この瞬間、僕は小園を勇者だとおもった

しかし

巨人は言葉でなく、拳で答えた

豚が宙を舞う・・・口から血を吐きながら

まさに紅の豚だ

そして遠山の上に落下した・・・

これほど面白いものはない・・・

でも、笑えなかった  
正直ちびつてた

「次はお前か？」

ナイフのような目で川崎をみた・・・

「やめてよ！彼はなにもしてないよ！」

何故かばう？僕をイジメてた奴の仲間だぞ？

巨人が怖いからだ

僕はもう必死だった

これ以上犠牲者をだしたくない

一応川崎は僕にはなにもしていないし

「あつそ・・・そうか・・・ならいいや」

巨人は目を点にしてつぶやいた

その隙に川崎は、猛ダッシュで屋上から逃げていった

「あつ！待てよ！！」

待つわけがない・・・

「あいつ卑怯だな」

この状況で逃げない奴の神経がおかしい

巨人は僕をみている・・・ナイフのような目で・・・

僕は勇気をふりしぼって言った

「な・・・ん・・・で・・・たたた・・・助けて・・・くれたんですか

あゝ・・・」

・・・

「ぶつ！！」

え？

巨人が急に吹き出した

「ぎやははははは！！変なしやべりかた！！ぎよへへへへ！！」

きみの笑い方も変だよ・・・

「なんで助けたかって？それはな・・・」

「助けたから金よこせ！」

なんてことはないよねー！！！！！！

「おい・・・話聞けよ・・・」

巨人はちよつと困った顔をした  
ぜんぜん怖い

「助けた理由はな、パンくれたから」

・・・・・・

はあ？

「お前は馬鹿かあああ！？そんなことで人を助けるなああああ！」  
ついに言ってしまった・・・

でも巨人は冷静に返事した

「俺は恩を受けたら必ず返すんだ。そうやって生きてきた」

だから馬鹿ですかあああ！？

僕はパン上げただけ、彼は不良2人を鳥にしてあげた

割合 1：1000

彼にしてみればパンを上げるのと不良飛ばすのは同レベルのことなのか・・・

「おい！チビ。名前なんていうんだ？」

「あ・・・宮川 一真です」

「一真かあ・・・俺は三好 雄太だ。何かあったらいつでも助けるぜ」

ありがとう。ユウタン・・・

この後小園とかの兄貴とか先輩の不良とかいっぱいきそうだけど  
がんばってね

僕は知らないよ

こいつが勝手に殴っただけだもんね

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9113c/>

---

コロッケパン！

2010年12月31日21時35分発行